

フィリピンに鍵盤楽器

静岡文化芸術大 学校支援活動を報告
芸術大生

静岡文化芸術大(浜松市中区)のボランティア活動団体「HANDs(ハンズ)」のメンバー5人が23日、市役所に鈴木康友市長を訪ね、市民から集めた中古鍵盤ハーモニカをフィリピン・ダバオ市などの学校に持参して寄贈する活動を報告した。

設立3年目のHANDsは昨年7～9月、新聞の告知記事や会員制交流サイト(SNS)で鍵盤ハーモニカを集め、きれいに洗浄。2月20～27日にダバオ市を訪れ、幼稚園児や小中学生が通う同市スペシャルスクールに約100台の鍵盤ハーモニカを寄贈した。

「音楽の街・浜松」の学生として、音楽教育の設備が足りていない同国の子どもたちに楽器演奏の楽しさを伝えるのが目的。同校と浜松市立佐鳴台小の子どもたちをビデオ通話でつなぎ、互いに「き

らきら星」を鍵盤ハーモニカで演奏する交流の機会を提供した。

HANDs代表の同大2年夏目茉実さん(20)は「音楽は言葉の壁を越えて交流できる」と成果を語り、同スクールから贈られた感謝状を披露した。鈴木市長も「後輩たちを育て、活動を継続して頑張る」と激励した。



ダバオ市での活動を報告するHANDsの夏目代表(右)ら=浜松市役所